新しいむつ市へ

むつ市総合経営計画
策定市民会議
実施報告書

市へのメッセージをつくろう
～わたしたちの声をとどける～



（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

【第1回】

日時・場所	令和7年10月25日（土） 13:30～16:30 @市役所大会議室A
参 加 者	学生（高校生・大学生） 19名 一般 19名　市役所職員 8名　計46名
内　　容	このまち、今どうなっている？ ～数値と暮らしから見えること～

【第2回】

日時・場所	令和7年11月8日（土） 13:30～16:30 @下北文化会館展示ホール
参 加 者	学生（高校生・大学生） 23名 一般 23名　市役所職員 8名　計54名
内　　容	どんな未来を叶えたい？ ～みらいへの道すじを考えよう～

【第3回】

日時・場所	令和7年11月22日（土） 13:30～16:30 @下北文化会館展示ホール
参 加 者	学生（高校生・大学生） 19名 一般 19名　市役所職員 8名　計46名
内　　容	未来のまち、こうだったらいいな ～みんなでアイディア出し～

【第4回】

日時・場所	令和7年12月 6日（土） 13:30～16:30 @市役所大会議室A
参 加 者	学生（高校生・大学生） 22名 一般 19名　市役所職員 8名　計49名
内　　容	市へのメッセージをつくろう ～わたしたちの声をとどける～



市長総括コメント

・市民会議での意見・発言がまちづくりに生かされるというサイクルを作っていきたい。
・会議での行政側の気づきは「周知・PR」と「自主性」。
・地元の人が知らないのは課題。市民の皆様が知っていて、外に発信・PRできるようなまちづくりが大事。
・自分たちがどうやったら自発的に参加するのかという仕組みづくりも必要。





（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

参加者からのアンケートから抜粋

会議で感じたこと・印象に残ったこと

【PR・周知】
- PRが重要だと思った。もう実施している政策など知らない人が多いのでそこが1番重要だと思った。
- 年代別の情報発信の仕方を考える必要を感じた。
- 行政が打つべきは「新しい施策」ではなく「今ある事業を一人でも多くの人に知ってもらうPR予算」なのかなと思います。
- 発表してみて、自分たちの班のテーマについて調べる必要があったなと感じ、すでにある制度について自分たちが知らなかったことに反省しました。
- PRや情報発信が課題というグループが多かったが、市民会議のように年代によらない人が話し合えば良いPRになると思った。

【自主性】
- 今のむつ市の課題やどうすればもっとよくできるかなどを考える良い機会でした。
- 想像していた以上にまちづくりに関わろうとする人々が多いことに驚いた。
- 自分の考えが経営計画に載るのはとてもむつ市のために考えていると実感した。
- 市民が自主的に動ける形がつくれればもっといいむつ市になると思います。
- むつ市経営計画意識を市民に持たせることはとても大切なことだと思います。今回のワークショップの結果をむつ市がどのように答えて対応するかまで実行していただければと思います。
- 今回は、むつ市の総合経営計画の策定のための会議だと思いますが、この様な会議は定期的に開催しても良いと思います。自分が参加し、意見を出すことによって、その後も市政に対しての関心度が高まると思います。続けていけば、選挙の投票率も上がるんじゃないかな？と感じました。

【変化】
- 考えはじめるとキリがなく、10年後に向けて大胆に変わっていけるといいです。
- 10年度もっと住みやすく良い町になっていればいいなと思います。たのしみです。

【若者の力】
- 若い青年達の意見がたのもしく感じます。むつ市の未来を！願いを叶える世代に託します。
- 若い人たちの参加が多く、大変良いことで嬉しく思いました。欲を言えばもっともっと自分の住んでいる町へ関心を持ってくれる人がいることを期待します。

【計画への反映など】
- 今回の意見が少しでもむつ市を良くしてくれることを願っています。
- 各テーマごとに幅広くさまざまな課題があることに共感しながら聞いていました。打ち手のアイディアの中には、なるほど！と思えるものもあり、それが具体的にむつ市の取り組みへとつながっていけばいいなと感じています。
- グループ内の参加者の背景を知ることで「どうしてそう思ったのか」のいっぺんを知ることができました。各政策を打ち出すときにはこうした背景を解像度を高めていけたら全ての政策が今よりもっと市民の満足度が高まるのかなと思いました。

市の取組への要望事項など

【防災】
- 大湊高校閉校後、校舎は避難所にすると良いと思う
- 防災・発電のため、廃校の利用と宿泊コンテナの活用

【公共交通】
- ムーヴィの利用客が少ないので、幅を広げて集客して、貢献を高めていただきたいです。
- JRの客数が少なくなったというので市役所の職員が率先して利用してほしい。（県庁へ行く時など）

【福祉】
- むつ病院の奨学金の制度が社会福祉士は利用できないので、もしできるようになればむつ病院に就職することを誓います！
- おじいちゃん、おばあちゃんも安心な街に。バスの本数がもう少し増えたり、ちょっとした用事を手伝ってくれるようなサービスが充実したりすると、高齢の方も安心して暮らせると思います。

【子育て】
- 子育ても、もっと楽しく！ 子育て世代としては、公園の遊具が新しくなったり、子どもと一緒に気兼ねなく入れるお店が増えたりすると、すごく助かります。「子育てするなら、むつ市だよね！」って、みんなが自慢できるような街になったら最高です。

【産業】
- 一次産業から六次産業へ、良い材料を外に出すだけでなく、良いものをさらに良くしていく産業をすすめて欲しいと思います。
- 農業・漁業を活性化するのに「道の駅」の活用←作る・売る・収入↑観光客↑

【観光】
- むつ市のスキー場をもっと観光地にしたいです。恐山が有名ですのでスキー場につながるようにして欲しいです。
- アゲハ・ジオパークと自慢できることをよりよい街づくりにもっともっと市が取り組んでは？経済効果に！！

【仕事】
- 大学がむつにできた事で良いこと、地元で学べるいいチャンス、親の所得を上げて希望する人が皆大学に行ける土台をつくって欲しい、企業誘致
- 若者がわくわくする街へ！若者が「むつ市で何かやりたい！」と思えるようなサポートをお願いします。例えば、空き店舗を活用したチャレンジショップとか、週末だけのマーケットとか、気軽に始められる場所があったら、街がもっと面白くなるはず！

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

1. 産業①《発表内容》

叶えたい未来：一次産業と企業誘致と情報発信が巡回しているまち

いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
● 良い素材があるが、担い手不足 ● 市民も魅力（産品・しごと・やりがい）がイマイチ分かっていない ● 情報が届いていない	● PR発信チームを作る！ 【市民＆行政】 ↓↓↓ 発信先：市民・企業・専門家（市外の方） 内容：産品の良さ・やりがい・むつ市の良さ・今の働き方の様子 （3Kのイメージ払拭！） 方法：YouTube・SNS	● 現地に足を運んでくれる、むつ市に興味を持つ会社が3社！ ● 働き手の確保	一次産業と企業誘致と情報発信が巡回しているまち

むつ市の素材は海産物・山菜など全てにおいておいしい！
どういう風に伝えていくか、ということには一工夫いるのかな・・・

企業が来ても働き手がいないと成り立たないので、働きたい・働かせたいと思うためにも情報発信で課題解決！



トマト工場寅福さんのような工場がもっとあったらな・・・

口コミによる電波を含めた、地域内の発信ツールとして、このPR発信チーム！

フィードバック

- 「地元を好きな人がいるか」というアンケートと「観光客が楽しかったか」というアンケートは相関性がある。地元のことを好きな人がたくさんいることは、むつ市に観光客を呼んできたときの可能性を示すものなんじゃないかな。
- むつ市に対する情熱や好きという気持ちをすごく感じた。
- 官民による発信チームという発想がいいです。
- 市民自身が分かっていないから、市民も一緒にPRするんだというアイディアがすばらしい！PRチームぜひ実現して欲しいです！
- 市民で外にどんどん発信していこう！
- PRに費用かけるのは大事だと思います。
- ウワサの情報の入手先は？！そこに発信していけば！！
- 「市民が魅力を分かっていない」→中にいると分からない部分、外から目線
- 発信力の課題は全体に共通。
- こどももそこで働かせたいと思わせるのが大事。
- 温暖化を逆手にとってチャンスに？！これまでむつ市で作れなかった作物が採れる・作れるチャンスでもあると捉えられているのかもしれない？

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

1. 産業②《その他意見》

	いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
一次産業	● 「爆発するナニカ」がほしい！ ● 一次産業で働いている人の割合が少ない ● すばらしい素材があるのに天候などで不安定（ホタテ・サケ） ● 昔は山を持ってる人自身が木を切ることが多かったが、今は森林組合にたのむ人が多い ● 担い手が少ない。和紙人形・ヒバのかごなど観光客に勧めたいが作る人がいなくなっている。 ● 地元の人が価値を分かっていない。おすすめのおみやげとか紹介できない ● 3K、良いイメージが少ない。実はそんなに3Kじゃない？若いうちから気づいて欲しい	● 一次産業の商品化。もっと力を入れてもらえたらインパクト強いかも！！ ● 自然が育てる一次産業の保護・養殖の強化	● 働き手がいる状況、知識・技術のある人が増える ● 新しい企業を呼ぶなどまたは今ある企業の中で商品開発を一緒に取り組んでもらい、高校生や大学生に向けた企業見学などで情報発信する ● トマト工場みたいな会社が市内に増える ● むつ市民向けのPR媒体がある ● むつ市外向けのPR媒体がある	● 継続。予算とか人に影響されず続けられる仕組み
企業誘致		● むつ市のメリットを企業にPRして知ってもらう（若い市長が新しいことをやってる！） ● 市民がその会社を知る機会を作る		
情報発信	● 情報発信不足。商品・おいしいものがあるのに知られていない ● 情報が届いていない ● 情報を得る機会が少ない ● むつ市民はうわさ好き？親戚・近所・家族からの情報は信じやすい！	● ふるさと納税の周知とあわせてアピールする ● 地元の人向けの情報発信を増やす ● トマト工場など企業見学のタイミングで情報発信 ● 毎月、有名な商品をSNSで情報発信する ● YouTubeでの発信でも実名の方が分かりやすく、見やすい ● FMラジオを増やしたい ● AIは手段であくまでも主体は人		









（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

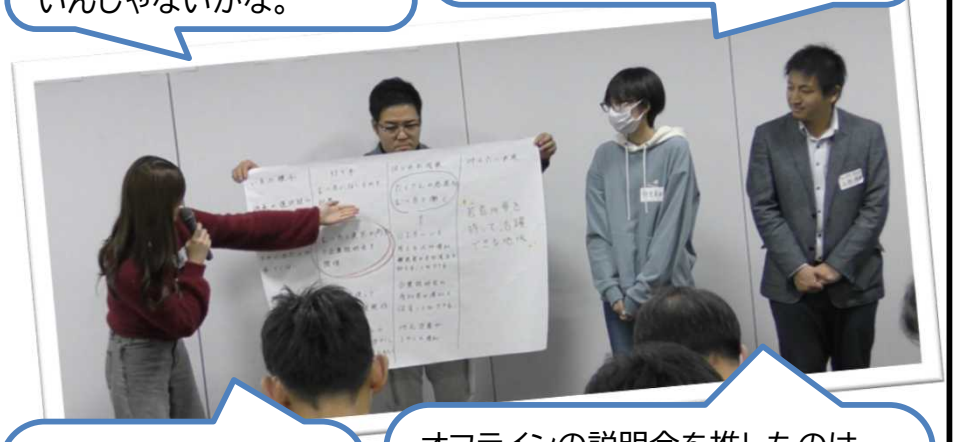
2. 仕事・UIターン①《発表内容》

叶えたい未来：若者が夢を持って活躍できる地域

いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
● 将来の選択肢が限られてしまっている（大学等） ● 進学・就職で市外に出た人が戻ってこない ● 企業の情報発信の機会が少ない ● 市外の人々がむつ市の魅力を知らない	● むつ市にないものを起業 ● むつ市と東京の両方で企業説明会を開催 ● SNSを使って企業の情報発信 ● ジオパークなどの観光資源を生かし、むつ市の魅力を肌で感じてもらう	● たくさんの若者がむつ市で働く↑↑↑ ● UIターンを考える人が増加し、若者の市外流出を抑えることができる ● 企業説明会の参加者の増加を促すことができる ● 地元定着やIターンの増加	若者が夢を持って活躍できる地域

企業も魅力的でなければ。特に若者への支援を重点的に考えて活動すればいいんじゃないかな。

企業が若者が働きやすいように支援するという風土づくりのため市による勉強会とかを開催するとか。



市外に出た人が戻ってこないのは、大学はできてきているけど他地域に比べて進学も就職も選択肢が少ないから？

オフラインの説明会を推したのは、「むつ市にはこういうものがないので合同出資しませんか？やってみませんか？」ということも説明したい。それによって将来の選択肢の場が増える！

フィードバック

- 供給サイドではなくて需要サイド、仕組みを作る側じゃなくて、そこで生活する人・仕事する人側の目線でどうやってよりいいものを作れるのかというのがトレンドだったりする。本当にいいなと思う企業を言語化・可視化させるのも施策づくりとしては大事な視点なんじゃないかな。
- 東京でむつのことを発信することはとても大切と思った。とても良い案！
- 都内での企業説明会は市内企業の力量アップになりますね！
- Iターン・Uターンはむつ市に様々な技術を持ってきていただけるチャンスと思っています。働きたいと思える街にしていくことを一生懸命考えていただきありがとうございました。
- むつ市ならではの若者への支援を進めるのは大賛成！
- 企業誘致も大事ですが、若い人が当地に集まり、起業できる環境づくりも必要だと感じます。
- むつ市の魅力発信を応援しよう！
- だれ目線で政策を発信するか？！
- 雪国に移住する人向けのあるある（ボイラーの水抜き、屋根の下歩かないなど）の発信が大事かも。
- 企業×学生、お互い知り合う機会を作りましょう！
- 企業自体による労働力支援が大切。
- 労働力に直接関係ないところの支援も大切。

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

2. 仕事・UIターン②《その他意見》

いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
● 職種が少ない ● 給料が安い（低い） ● 学び・仕事に関して選択肢が少なく、平均所得も少ない。若者が夢を持てる環境じゃない ● 交通の便が悪い。気軽にバイト等ができない	● 市役所が求人のマッチングを手伝う ● 市主導の企業説明会（下北の企業） ● SNS・テレビ・ラジオを使って宣伝する ● 創業支援の仕組みをつくる ● 企業に対して補助金を出す ● 企業が若者にもっとアピールする ● どんな大学・企業につきたいか、市内の学生にアンケート ● 運転免許無償化 ● 大学などむつ市内での進学の選択肢を増やす ● 就職先（進学先）を増やす ● 民泊をつくる ● ジオパークをめぐる旅行プランを考える ● 経営者等が会社として若者が働きやすい環境づくりのための工夫をしていると分かるような認定制度を作る。セミナーを受講すると認定を得られる。認定があると採用で優位になるような風土を作る	● 説明会に来場者が来る ● UIターンする人口が増える ● 有効求人倍率を0．9→1．0 ● 新しい店舗ができる ● 企業での若者支援の動きが活発になる（車がない人の送迎、スキリングへの理解、スキリング手当が出る）	若者が夢を持って活躍できる地域







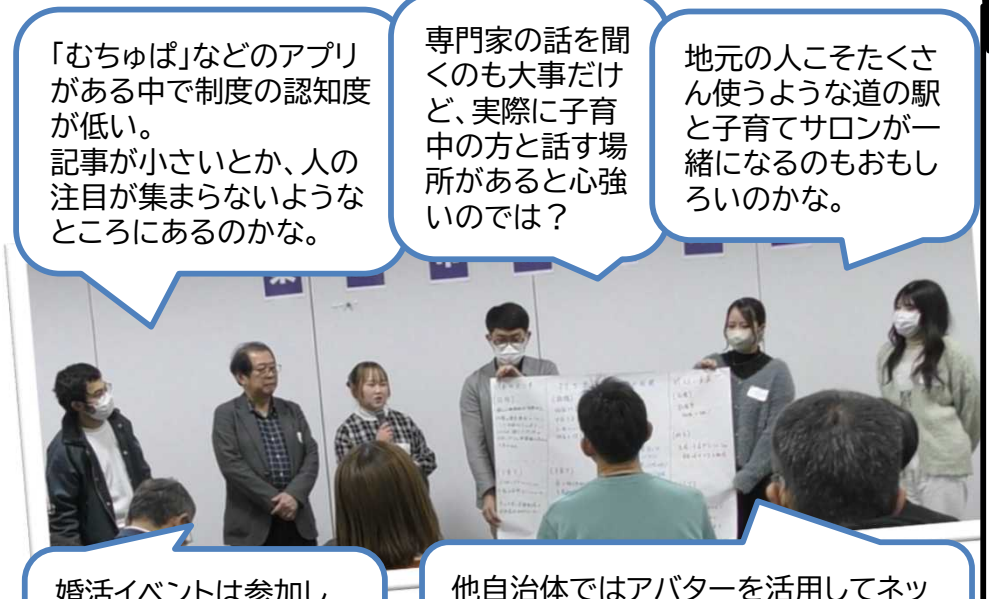


（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

3. 結婚・子育て①《発表内容》

叶えたい未来：お金・仕事などいろいろな面で子育てのサポートがある町

	いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来	
結婚	● 個人の価値観が多様化し、結婚の優先順位が下がったことで結婚する人が減少した。そのため個人や地域の結婚に対する価値観を高める必要がある	● 相談できる機会・イベントを実施する ● 結婚について学校などで教育を行う	● アンケート調査などで出産・子育てについての前向きな意見10%UP ● 出産・子育てに関する支援制度を周知（認知度を上げる）	結婚率40→50%	出産・子育てについての相談ができる制度
子育て	● むつ市に大学ができたのに支援は高校までのものが多い ● 市の子育て支援制度の認知度があまりよくない	● 市で他地域のイベントを参考に事業を行う（ワークショップ形式の相談会など） ● サポートセンターの設置		● 出生数 220→260人 ● 制度・施設など子育てしやすいまち	



フィードバック

- 人口5万人規模の市で4年制の大学が2校あるのは、むつ市の強み！学部も総合大学並みにそろってる。地域活動で生徒の質を上げていく総合学科が高校にあるのも。
- 大学生・高校生が地域活動する上で自分が「役に立った」と実感するには、小さいこどもたちと関わること。自己肯定感アップ。活動によって地域への愛着も深まるし、活動費を補助する制度も検討してもらえれば盛り上がっていくのでは。
- 子育て支援は実際に色々あるのに若者が知らない、というのは課題認識かな。
- 青森県のオンライン診療、相談窓口あります！周知不足・・・。
- 子育てに限ったことではないのですが、相談できる場所などの市でやっていることの周知が不足しているんだなと感じました。
- 結婚相談という視点があるのか！という発見。
- むつ市の強みや好きなことをPR・発信していくことが大切ということを再確認。
- 市民レベルの地域活動への支援アイディア、とてもいいと思いました。
- 自然な「交流」イベントがいいと思います。
- 交流する場ってスポーツやサークル（文化）だと思う。スポーツ・文化への応援があるといい。
- アバター版アプリ、大賛成です。
- ママ友・パパ友のつながりを作るのが大切だと思った。
- 2人目・3人目を諦める人を減らしたい。
- 大学生への支援が少ないということに初めて気づいた。

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

3. 結婚・子育て②《その他意見》

	いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
全体	● 結婚・出産に関して相談できる環境がない ● なぜ結婚・出産できないか、現状の問題点（市民の意見）が正しくわからない ● 結婚・出産に対して個人・地域共に価値のあるものだと認識を高める必要がある		● 市のイメージ・意見を市民から聞く ● 子育て支援制度についての理解を広げる	出産・子育てについてすぐ相談できる環境がほしい
結婚	● 人口が減、県外に行く人が多い、そもそも結婚する人が少ない	● 学校などで児童生徒への意識付けを行う ● 専門機関に相談できるイベントの開催と参加のハードルを下げる		
子育て	● むつ市の子育て支援制度について知っている人・理解している人が少ない ● こどもが安心して遊べる場所が少ない ● こどもの検診・ワクチン接種の時以外に相談できる場がない	● 子育て支援制度の理解を深めるための講話を聞く（市役所・看護師・医者などを呼ぶ） ● 産婦人科の先生のよる講演会 ● 相談にのってあげるボランティア夫婦へ市がマッチングしてあげるサービスをする ● こどもが遊べる場所を増やす		













（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

4. 教育①《発表内容》

叶えたい未来：生徒が学び方を選べるむつ市であってほしい

いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
● 学力低下	● 高校生が授業感覚で小中学生に教えることができる場をつくる（自分たち（高校生）が勉強する）	● 教えられる学生を5人作る	生徒が学び方を選べるむつ市であってほしい
● 不登校の増加	● オンライン授業を導入する（コロナの時にやっていた）	● オンライン授業を導入する学校を2つに増やす（※中学校）	
● 不登校に対するイメージの悪さ	● 学校に「通信制」を増やす	● 「通信制を増やす」という要望を伝えた	

むつ☆かつなどで高校生が独自で活動する場を作ることで高校生自身も勉強し、学力向上！

不登校になった子をどう学校に戻すかばかりを見てて、何をしてあげるかという視点が足りないのでは。

不登校の人を別のジャンル移すイメージで通信制に！
まずは、今日、要望を教育委員会の方に伝えました！



勉強はやらされ感は良くないし、与えなかったらやらない。解決のヒントは大学のように自分が学びたいことを選べること？自分の意思でできること？強制されているとやりづらい・・・

フィードバック

- 「自分で決めたい」というのは本能的なもの。自発的に働く社員を育てるには「自己決定感」「自己効力感」「組織効力感」。生徒たちが自分で選んだと言えることが大事で、「すごいね」と言ってもらえる経験が不可欠な中で、こどもたちの近くにいる大人達ができる役割はいっぱいあるんじゃないかな。
- 皆さんの話し合いは「明るい、前向き、具体的」。学校の先生と話すと「暗い、抽象的、保守的」になりがち。私たちも学校にお願いしているのは「学力向上」と「不登校対策」で提案は具体的に検討していきたい。現実になるように頑張ります！
- むつ市だけでなく、日本全国にとってためになるアイディアだと思います。
- 不登校の人はどうしているのか考えたことがあったので、発表を聞いてそういうのも知れる機会があればいいとも考えた。学生が多くて自分たちが経験してきたから言えるのかなと感じた。
- 不登校を減らすために？ならないようにするために？
- 個々に対応した教育環境を中学から提供してほしい。
- 学び方の支援や相談をできる環境づくり。
- 高校生の先生育成、おもしろいアイディア！年齢も近く親近感・フレンドリー。放課後の塾的な場を設ければいいかも。
- 夏休み・冬休みにぜひ高校生と小学生の学びの場を設定して欲しいと思いました。
- 市内のこどもたちの読書量が気になる。文字の読み書きに慣れるための方法を考えたい。

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

4. 教育②《その他意見》

	いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
学校生活	● いじめ ● なじめない ● 学力が追いつかない ● マンネリ化 ● 授業が長い ● 休息の時間を少し長めがいい ● 原因を追求したがる ● 学外でやりたいことをやる時間が限られてくる ● 対面以外での教育の選択肢がない	● 学年・学校を超えた交流が増えて欲しい ● 小中高の学校の交流を増やして欲しい ● 校外授業を増やし、普段とは違う環境をつくる ● 体験型の学習を多く取り入れる ● 部活動の幅を広げる ● レクリエーションを増やす ● 小中学校の授業をオンライン（オンデマンドでも可）で受けられるようにする ● むつ市の高校に通信制コースを設置		● 将来の選択肢が多いむつ市になってほしい ● 進学先がむつ市に増えて欲しい ● むつ市の教育が様々なことを学べる場になってほしい（商業、水産業など） ● 教育の中でより地域を知る機会を増やして欲しい ● 地域ならではの（地域性のあるもの）授業があってもいい。ひいては人口減少につながる ● むつ市の教育がより柔軟なものになってほしい ● むつ市の不登校が0になってほしい ● 明確な理由がない校則がなくなってほしい ● 自分で考えて計画・方向性を立て、自分が達成したことを感じる ● 親の意見に耳をかたむけながらも広い視野を持つこと ● いろいろな考えや他の人の考えを参考にして実践。生活に役立てる ● 社会的視野。日本だけでなく世界のいろいろな政治・経済も学習する
不登校対策	● 「不登校＝悪いこと」という認識がそれとなくある ● 不登校に対する打ち手が少ない、学校復帰へのサポートしかない			
その他教育関係	● 実践型の高校・大学があったら良い ● 地域にこどもが少ないので移住者などで増える対策を講じて欲しい	● 大学生の活動をもっとPRする ● 魅力あるまちづくりをし、学生をよびこむ→大学の数を増やす ● 様々な企業を誘致して、キャリアを生かす場が多くなる		









（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

5. 安心・安全・防災①《発表内容》

叶えたい未来：対策万全！危機の備えがみえるまち～安心して暮らせるむつ市～

いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
☆防災意識が低い ● クマ被害 ● 空き家対策 ● 自転車の安全確保 ● 避難所の見直し	☆防災意識の向上のため、防災関係のイベントを増やす ☆地域の人と一緒に訓練する ● クマの頭数、里山管理 ● 空き家をデータベースで管理する ● 税金の支援 ● ペットの避難所を増やす	☆防災意識が高まる ☆各家庭での避難所計画の設置 ☆地域コミュニティの活性化 ☆地域の人と関わる会を開催（0→3回） ☆町内会の防災組織率30→50% ● 空き家をイノベーションして使う	対策万全！ 危機の備えがみえるまち ～安心して暮らせる むつ市～

防災のイベントでは、参加者が少なかったり、参加者が同じだったり、というのが現状です

大湊高校主催の「下北BOUSAIネットワーク」に参加しています！
きっかけはジオパークの活動発表会の中で先輩が防災に関わる発表をしていて、誘われたから！



ペットは飼っている人にとっては家族。一緒に避難できる形がいいが、どうしても地域の方の理解が必要。打ち手として、そういう議論を始めることが大事なのでは？

フィードバック

- 関心が高いからやるのではなく、やるから関心が高まるというのがとても大事。参加してみたら意外と大事なんだな、楽しいんだな、というのが人の心理的なナニカなんじゃないかな。
- そもそも防災意識ってどう測れるんだろう？防災はどこまでも高めなければいけないし、何がどこまで行ったらむつ市の防災意識が十分高いと言えるのだろう？みんなが納得できる測り方、それはどうあるべきかというのも深い。
- 「危機への備えがみえるまち」を目指したい！目指すために頑張りたい！
- 防災意識が低いと市民の方が思っていることは向上への突破口になると思う。
- 「防災に興味はあるが満足度低い」という事実を周知して、皆で解決策を探りたい。
- 各家庭でも「災害が起きたらどうする？」「避難する場所は？」など会話できたらいいなぁと思っています。各家庭の避難計画設置、いいと思います！
- 地域、人の繋がりが大切だと感じた。
- 意識を高めることと寄り添うことは難しいですね。
- 原子力防災訓練に大学で参加したとき、平日というのもあり若者の参加者が少なかったり、自分自身も知らないことが多かったので、学校の事業として参加する機会をつくればいいと思った。改めて大湊高校、頑張っていると感じた。
- 防災力アップ→地域のつながりづくりは面白いアイディア。
- ペットの避難所は必要ですが、どういう形のものがよいのか考えてみたい！
- ペットに対する認識の違い、興味深い。人それぞれの価値観によるトラブル発生は閉鎖空間においては大問題なので防止に力を入れるべきと考える。
- 空き家リノベで防災拠点施設が作れたら良いな。

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

5. 安心・安全・防災②《その他意見》

	いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
防災	● みんな防災意識大丈夫？と思うときがある ● 避難指示があっても避難しない ● 企業や団体の意識が低い ● 防災グッズの備えが低い ● 防災グッズについての知識がない人が多い ● 避難所についての理解（場所など）が低い ● 避難所が100箇所は多すぎて分からない ● 町内会に加入していない人がいて互助・共助できる？	● 防災意識向上のため、防災関係のイベントを増やす ● イベントで防災グッズについての講演会を開き、オリジナル防災グッズを作るよう推進する ● 小学生・中学生に正しい防災を教育する（こどもの言うことは親は耳を傾ける） ● 防災備品所持世帯率の調査 ● 防災意識向上×多様な人との交流＝イベントをする ● 避難所の場所や設定の見直し ● 各家庭に防災グッズの設置 ● 地域の人たちと直接顔を合わせて関わる機会をつくる ● 防災組織の結成支援をする ● 町内会への加入を勧める	● 防災意識が高まる ● 災害についての知識がつく ● 各家庭での避難計画の設置割合が増える ● 防災備品の保有世帯30% ● 知識・スキルの習得のある人を増やす	
情報伝達	● 市役所からの情報が全員に届いていない？	● 高齢者へのスマホ購入支援 ● LINE友達を増やす	LINE友達登録者 25,000→35,000人 （50→70%）	
空き家	● 空き家だらけで管理者が分からない	● 家主を情報収集 ● 税金への支援 ● 空き家解体支援	空き家のイノベーション	空き家のない火災に強く安全な町
クマ対策	● クマがたくさん。安心して外を歩けない（市街に出ている） ● 獣（クマやイノシシ）の被害の不安がある	● クマ全体の頭数を把握してから、頭数を減らす ● 自衛隊・警察に協力してもらい里に入ってきたクマを威嚇する ● 森林と人里とを分ける。下草刈り		
交通安全	● 歩行者や自転車が安全に通行できない	● 自転車用道路の設置・整備		











（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

6. 医療・健康・福祉①《発表内容》

叶えたい未来：安心して長生きできる町になってほしい

	いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
医療	● 病院の待ち時間がとても長い ● 病院を受診するときにネット予約できるところがない ● 複数科を受診できる総合病院であることから多くの患者が集中する ● 忙しいと職員の対応も怖くなる ● 順番表示はあるが20分おきの10番単位のため「目安」でしかない ● 課金して予約しても待たされる ● 医者が足りない ● 病院まで遠い ● 市外で行う医療がある（PETなど）	● スマホがある人→LINEで簡単予約 ● スマホがない人→スーパーにタブレットを置き、紙の説明を添えて自分OR付添が予約 ● 電話しか使えない人→自動音声ガイドで予約 ● 医師は画面越しにオンラインで診療に関わる ● 車の中で診療を受けられる ● 医療車の試験運行を月2～3回、5人程度の少人数から始める ● 看護師が医療機器を積んだ車で地域を巡回 ● 市から医師を派遣（市外の医師） ● 短期で働いてみないかと呼びかける	● スーパーでついでの予約するという新しい習慣が少しずつ広がる ● 朝早くにむつ病院に並ぶ人が減る ● 病院の待ち時間が短縮 ● オンラインを通じて他の市の医師と関わるきっかけが生まれる ● 川内とか脇野沢とかの診療場所の少ない地域に住んでいる人たちがすぐに診療できるから病気の早期発見・早期治療ができるから健康な人が増える	安心して長生きできるむつ市 そのためには、「医療が来ない町」ではなく、「医療が動き、医師が関わり続ける町」にかわっていくこと
健康	● メタボ率が高い（肥満・高血圧・糖尿病など） ● フレイル状態の方が多し ● 検診の受診率が低い ● むつ市の平均寿命が短い ● あまり健康のために運動をしていないイメージがある	● 月に1回「健康デー」を設け、体育館やジムを無料で利用できる日をつくる ● 検診を受けた人に地域のスーパーや食堂で使える割引券などの特権をつくる ● 年代ごと等受診率を広報誌などで公開し「今年は〇%達成」と分かりやすく伝える	● 検診受診率が前年より2～3%上がる	
福祉	● 介護施設の入所待ちが多い ● 1人又は老老家族が多し ● 県外に住むこどもが介護できない	● 地域活動への参加を促す仕組み ● 学びと交流の場づくりとしてイベントを定期開催する ● 市がジムと提携し、高齢者の利用料金を軽減	● 活動・イベントに参加する人が増える ● ジム料金の軽減をきっかけに月4人程度の高齢者が運動を始める	

人は混雑するところにいるだけでストレス。
スーパーに予約タブレット設置は生活動線を考えた！買い物のついでに予約できればいい！



医療バージョンの会津若松市みたいな姉妹都市を作っては？！

オンライン診療は高齢者にとって抵抗があるかもしれないけど、暮らしを少し楽にするための工夫！

短期医師が来やすいように医師専用住宅や温泉施設利用券とかむつ市の楽しみを提供。

フィードバック

● 医療の実態をよく分析できていてGOOD！　● 行政の役目は医療を動かす！こと。
● 短期医師の取組について、全国を旅するシェフの取組が人気。現地にある食材や地元民から生でフィードバックが受けられるから。アナロジー的に何かできないかな？
● デジタル・オンラインは暮らしを良くするというキーワードが印象的。DXやデジタルは市や病院が準備するので、そういう環境を作るというアイディアが出たのがいい！
● LINE予約、並ばなくていいし、ぜひ！　● ネットによる予約は良いと思う。スーパー等に設置するなら、プライバシーを守る形にする必要アリ。
● 学生も多く、八戸学院大学の看護学生もいて知っていることも多かったり、これからの未来に向けて若者だから考えられることがあると感じた。
● 若者がこんなにも医療・健康・福祉分野に大きな関心を持っていたことに驚きとともに嬉しく思う。ドクターの件、面白いアイディア！
● 短期医師、いろいろ関連するメリットがありそう。　● むつの健康改善の取組、ぜひ取り組んで欲しい！
● むつ病院は2次医療機関。待ち時間が長いのは地元の個人病院が少ないことも原因です。個人病院を増やすためにはどのようにしたらいいかを皆さんで考えたいですね。
● 個人病院の開業者に援助し、患者をむつ病から個人病院に。　● むつ市に医師を招く方法として教育・子育て環境の整備。まずは若い医師に選んでもらえるむつ病に！

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

6. 医療・健康・福祉②《その他意見》

	いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
医療	● 大きい病院の数が少ない ● 軽症者も安心だからとむつ病院に集まる。複数かを受診する患者も多いため混む ● 医療や介護の現場はたくさんの方を診なければならなく、やることがとても多い。ハードで残業も多く休みにくいため働きにくい ● 久しぶりに行ったときに初診料が高くていきづらい。ちょっと安くならないかなぁ ● 予防接種や診察の料金が高いから受けにくい ● コロナの予防接種の時みたく、インフルエンザは毎年流行しているから強制接種にしてほしい	● 診察を午後にもやる ● 午前に忙しくて病院に行くことのできない人が午後に行くことによって病院を受診する人が増える上に午前に医師・看護師もあせらずに働けるから両者ともストレスが減る ● 早くむつ病院を大きくする ● 今使われていない場所を診療所や病院として活用し、診察できる患者さんを増やす ● 受診率が低い科のスペースを有効に使う ● 忙しいのは人手が足りないからだと思うので、医療従事者になることのメリット・デメリットを明確にして募集を行う ● 八戸学院大学看護科のように医師や理学療法士などの職につけるような教育の場を作る ● 医療系の職場体験の機会を増やし、学校とかで興味のなさそうな人にこそ体験してもらったりする ● 介護士や看護師の仕事量と給料が合わないので市が見合わせる	● 病院の待ち時間が個人病院1時間、むつ病院2時間	
健診		● 市で健康診断の受診率を見える化させて、現状を市民に伝える ● 健診を強制にする。希望日をとって「この日絶対来てね！」みたいな感じで、、、 ● 健診受診の回数に応じてなにか行う（ふるさと納税みたいな特典など）		
食生活		● 健康的な食事ができる食道の環境づくりを市が支援する（メニューの作成、地場産品の活用） ● 市民がどのような食生活をしているのか調べる ● きちんとした食生活「1095」一年間の食事量		
運動		● 肥満のこどもが楽しく運動できる施設やイベント ● 体脂肪率が平均より上回っている人の運動施設無料など ● 運動不足の人限定の運動会開催 ● 高齢者限定の運動会開催		
介護関係	● 高齢化で介護サービスの需要が高まるが、施設や介護する人材が足りない ● よく話し合える相手が欲しい	● 高齢者の方のジムの料金を無料か安くし、運動してもらう。たまに講師の人を呼んだりしてみる ● 忙しいのは人手が少ない。人手が少ないのは若者の流出でいろんな施設が少ないからなので、若者が嬉しい・住みたいと思えるような施設を作る ● 会合に参加する（元気がないなど他人が変化に気づきやすい） ● 新聞・テレビから情報・知識を得る ● おせっかいをする ● 自分自身の小さな変化に気をつける		

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

7. 観光・交流・文化①《発表内容》

叶えたい未来：どんな人でも楽しめるまち（食・人種）

いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
● 県内で7番目の観光入込客数 ● 宿泊場所がない ● 食や自然、文化は多いが土産物などの情報発信がない	● 老若男女誰でも楽しめる施設を作る ● 空き家を民泊施設として利用 ● むつ市内の土産やおいしい店をリスト化して探せるサイト・アプリを作る ● 伝統芸能を体験	● 観光客増加→10%アップ ● 作成したサイトの閲覧数UP ● 土産屋の来客数や売上げUP ● むつ市民の地域への関心度UP	● どんな人でも楽しめる街 ● 地域にぎわい創出拠点施設（仮称：COMEつながるしもきた）

「飲み屋街においしい店が集中してるよね」「あんしんして行けるお店がいい」という意見から検討開始。

しもきたツーリズムのサイトを見て、むつ市ってこんなに新しいものがあるんだと思った。むつ市のイメージを変えてくれたところで働きたい！おみやげも新しく良い感じにできる会社があれば入りたい！



道の駅のような拠点施設『かむ　つながるしもきた』、「むつ」とかけてます！
大きい駐車場があれば、車中泊でそこに宿泊する観光客もいるかも！宿泊施設、交流できる飲食スペースもほしい！

一度県外に出て、自分の地元がどう見えるのかを知りたい。
むつ市の歴史に興味がある。
自分が好きなものが一つあればいいかな。

フィードバック

- 市内のおいしいお店、遊べる場所、むつ市観光アプリ「きらナビ」あります！知られていない・・・。PR不足・・・。
- 地元利用と観光客利用は意外と裏表。地元民が盛り上げているアプリじゃないと、観光客も意外と使わなくなるもの。
- 道の駅も人口数万人でうまくいっているところは地元民の利用率が高かったりする。自分たちがつい行っちゃうような道の駅は？というアイディア出しはすごく大事な分野。
- 実は「地元民が楽しめる場所」がキーワード。
- 「道の駅」に対する期待は大きい！
- 「飲み屋街は学生さんたちが行きにくい」というのは着眼点として良い課題認識。
- ネーミング、COMEつながるしもきた、いいですね。様々の世代にとっての集いの場になればいいです。
- 老若男女楽しめるのはいいですね。でもターゲットはちゃんと絞った方がいいと思います。複数あるといいですよね。
- 外から見ると、中の人も地元を知らない。
- 伝統文化の体験、地元民も観光客もおもしろい。
- 博物館にあたるような施設を建設することで観光・文化の保存・市内外への教育効果が期待できる。マタギ・恐山・宇賀焼きといった歴史の資料を保存して学術的な面への貢献も可能。
- 宿泊施設周辺の店は優先して考えてしまうのですが、むつ市の市街地に確かに宿泊施設がないと感じた。

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

7. 観光・交流・文化②《その他意見》

	いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
観光	● 海外の方への対応不足、年齢などの制限 ● 外国人観光客を迎える市民の対応があまりできていない（看板の設置など） ● 良い自然・環境はあるが、王令か・人材不足等で閉鎖が続いている ● 食や自然が多く存在するが観光として活用しきれていない 	● 青森県に来ている台湾人観光客をむつに呼び、今より倍近い観光客を呼ぶ ● 台湾の高雄市など市民同士で交流する機会を作る ● 海外の方にはアプリを使う ● むつの海外向けインスタの活用（しもきたツーリズムのツアーをもっともっとPRする） ● むつ市の全てを集めたスポット（ショッピングモールのような？道の駅とか）があれば観光スポットにもなるし、老若男女誰でも楽しめるかな（合併して広い面積のまちになったというのもあるし） ● 新たな自然アクティビティの創出とPR ● むつ市のお土産を増やすなどすでにあるものを新しく進化 ● 各地区に1軒民泊施設をつくり管理者を置く	● アクティビティへの参加者数を今より倍に増やす ● 自然アクティビティ施設の閉鎖・中止の撤廃 ● 参加者数が10%UP ● 観光客・来場者数がUP	● 県内観光客数1位 ● 観光客が安心して旅を楽しめる街 ● ジオパークなどを活用し、外国人観光客が来てくれるまち ● 既存のむつ市の魅力をさらに増やす ● むつ市の自然観光アクティビティが活発になってほしい ● 飲み屋街が飲まない人でも楽しめるようになってほしい ● 伝統芸能・伝統文化が続くまち ● 伝統工芸品や特産品を気軽に手に取れるむつ市
飲食店	● おいしい店は飲み屋街に多い。「飲み屋街」は飲めない人・学生には行きにくい。海外からの人への看板や案内板も少ない ● むつの「うまい」は飲み屋街に集まっているように思う。しかし飲み屋街ということで少々足を運びづらく、結果、むつ市の「うまい」を知らない。手つかずといった人も多くいるように思う ● おいしい店はあっても飲み屋街に多く、酒を飲まない人にはハードルが大きい ● 居酒屋は多いが昼はやっていないことが多い ● 食べログ系サイトのレビューは多いが、ホテル付近や中心部に集中しているため離れた部分の店を知る手段が少ない ● コミュニティの減少で失われていっている	● むつ市のおいしい店を探せるサイト・アプリを作る ● 中心部以外の地域の飲食店（定食屋）等をピックアップして、むつ市で紹介する ● 昼でも開いている飲み屋街の店をリスト化してパンフレットにしたり、サイトにしたりする（ランチタイム等） ● 昼と夜で街の雰囲気を変える。昼は明るく健全なイメージの店づくりをし、ストリートを作り学生や親子も気軽に歩ける街へ ● おてつたび等を活用して人材の確保 ● 宿泊施設の充実 ● 若い人へのアプローチ 	● 店の担当者が昼と夜、各々働き、おいしい店が増える ● 昼間の店の来客数UP ● 土産屋の来客数や売上げがUP ● マップ・サイトの閲覧数が増え、紙のマップ・パンフレットが減り、店の売上げUP ● 来客の増加	 
土産等	● 土産物についての情報が少ない（下北と言えば・・・な土産がない） ● 伝統工芸品がどんなものか分からない。そもそもどこに売っているのかさえ分からない	● 「下北」を全面的に押し出した土産コーナーを作る ● 下北のものを取り扱う店を増やす（コンビニやスーパーの一角）		

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

8. 環境・交通・まちづくり①《発表内容》

叶えたい未来：誰にとっても便利で快適な交通社会になってほしい

	いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来	
公共交通	● 電車が止まった時の代替運行がない ● タクシーがつかまらない	● 若年退職の自衛官をタクシー運転手に採用支援 ● タクシー運転手になるための支援（奨学金・補助金）	● 新しいタクシー運転手の採用	人口が流出しないまち	誰にとっても便利で快適な交通社会になってほしい
駅開発	● 駅に魅力がない ● 駅周辺にお店がない	● 駅を整備して、同じ建物の中にトイレや観光案内、お土産屋を入れる。飲食店もあったら◎	● 電車に乗らない人も駅を利用する	市民も観光客も見て分かりやすく楽しめる駅になってほしい	

むつ市の魅力の一つとして、「むつ市は自衛隊のまち」！

「駅はむつ市の玄関口」。駅周辺がこうだったらいいな、というのを率直に相談しました。



下北半島縦貫道路の運動をしています。あと7年。JR大湊線は赤字路線ですが、廃止が先か、縦貫道完成が先か・・・。
縦貫道路ができれば、高速でバスを走らせることができます！

空港からも新幹線からも遠い下北半島・・・。
縦貫道ができれば、観光客もたくさん来てもらえるし、滞在時間も長くなる！
企業誘致も楽になるかも！

フィードバック

- 交通体系など検討段階で発信できる仕組みづくりがあったらいいなと感じた。プラットフォームみたいな。ある種、今回のワークショップがそういう場だったんだろうな。
- 駅周辺整備は自治体。現状の整備に満足している部分もあったが、1番弱い点になってしまっているかもしれない。コンテンツの問題があったことに気づいた。
- 全ての方に便利なまちづくりを！
- 駅への着目が新しい発見でした。市民にとっても観光客にとっても大きい視点。
- たしかに下北駅が集いの場になれば楽しいですよね。
- 下北にとって駅はバトンタッチの場であるため、中間地点としてそこで楽しませるのは同意。
- 駅の魅力を上げるために、何が必要か？
- バス自動運転などデジタル導入→運転手の人材不足（観光充実にも寄与）
- 飲み会の専用バス・タクシー、導入したらおもしろいかも。
- 公共交通、救世主は自衛隊！これからの政策の中でどう展開できるか検討したい。
- 自衛隊がいるのは当たり前ではない。自衛隊グルメなどさらに推進を！
- タクシー不足・退職自衛官の再就職先という2つの懸念を解消するアイディアですね。駅周辺のにぎわいは参考にしたい。
- 交通関係など本当に人材が少なくなっている現状でなり手に対しての補助金はいいと思いました。また、将来のこどもが「かっこいい!」「運転手になりたい」と思えるようなイメージづくりも大事だなと思いました。
- 大学生として交通の便が人口減少のきっかけという話も講義であったので、大人の立派な意見が聞けてすごくいい機会だった。

（2）策定市民会議（市民ワークショップ）全4回

8. 環境・交通・まちづくり②《その他意見》

	いまの様子	打ち手	はじめの成果	叶えたい未来
公共交通	● 悪天候で電車が止まるとどこも行けなくなる ● 駅までが不便 ● JRの利用者が減少し、減便につながってしまう ● 汽車やバスを使う楽しさに欠ける ● バスの利用時間が微妙 ● 停留所がさみしく、こわい。椅子もなく休めない	● 具体的に路線（代替バス）を考えて提言する ● 駅からアゲハの夜景までのデマンドバスを運行する ● 公共交通と観光地の連携強化 ● 駅の周りに施設・お店を充実させる ● 人気キャラクターとのコラボ ● （地元舞台・縁ある漫画とのコラボ（シャーマンキング・封神演義）） ● 停留所や駅の整備をする	● 駅の利用が増える ● 駅等の滞在時間が楽しくなり、コミュニティが生まれる	
道路	● 空港・新幹線駅までが遠い ● 縦貫道があと7年かかる ● 除雪がイライラする。小さい道は大きい道の後回しで遅い ● 歩行者にとって危ない道がある。自転車の乗り方も問題	● コンパクトシティを推進し、除雪や公共交通を街中などに集中させる ● 道路の整備 ● メインの通りを決めて、歩道と自転車道を分ける ● 通学路の横断歩道スペースの確保	● 事故の減少、死亡者数の減少 ● みんなが利便性を感じることができる	
トイレ	● トイレなどの公共施設に女性の視点が足りていない ● 駅のトイレなど公衆トイレが屋外にあって使いにくい ● 公衆トイレの和式が使いづらく、入りづらい	● 公衆トイレを和式から洋式にして、衛生面の管理を徹底する		
街中	● 駅前など、通りがさびしい。シャッター街も多い	● 街中に花を増やす。花植イベント団体の花植支援		
ゴミ	● ゴミの分別意識が高まってほしい			ゴミの排出量を減らして地球にも人にも優しいまちに
その他	● 民生委員の活動をもっと明確に見える化する　● 高齢独居世帯が日中1人で心配　● 高齢独居世帯の見守り（日中）を増やす ● 孤立している人が多い　● 若者の生活に合う職場が少ない ● テレワークなど柔軟な勤務制度を増やすことで、人中親の見守りなどができ、就活の選択肢が増える			









